

日本のローンボウルの歩みの紹介

2018年12月31日

森 紘一

日本にローンボウルズが導入された経路としては、YC&ACのように外国人が自分たちのプライベート・スポーツクラブにグリーンを設けてプレーしていたものが日本人にも広がったものと、以下に記すように（*）日本人が独自に導入したものとの2つがあると考えられます。後者の経路は関西から始まっており現在に至っています。（*1992年までの記事は、西 忠雄氏が残された資料に拠っていません。）

1963（昭和38）年に、芦屋市在住の林英夫という人（実業家？）がオーストラリアでローンボウルズというゲームが非常に盛んであることを知り日本に導入しようと考え、オーストラリア大使館を通じて関係者との連絡および日本への招待などを行い、翌年には朝日新聞運動部と協力して「ルールブック日本語版」100部を初めて発行した。

1964（昭和39）年に、当時の世界統一組織であるI.B.B. (International Bowling Board)の会長らを紹介されて、林氏を中心になって日本の協会組織の設立準備を進めた。主として関西のゴルフ界の人脈が中心であった。

1966（昭和41）年に、日本ローンボウルズ協会を正式に発足。初代会長は四角誠一氏（関西ゴルフ連盟理事長）。林氏は事務局長。あわせてI.B.B.に加盟申請書を送り、7月にI.B.B.会長が来日して、日本の加盟承認を伝達された。10月には林氏がシドニーで開催された第1回世界選手権大会にオブザーバーとして招待され出席した。

世界選手権大会は第2回が1972年に英国で開催され、このときは日本は参加せず、1976年に南アフリカ・ヨハネスブルグで開催された第3回大会に初出場している（猿丸吉左衛門（当時の芦屋市長）、その息子の猿丸進吾、林成郎（林英夫氏の息子）、鍋嶋重弥、泉光義、西忠雄（西雅一郎氏の兄）の6名が選手として参加）。

当時のプレー拠点は、ゴルフクラブの名門である茨木カントリー倶楽部や西宮カントリー倶楽部内に附属施設としてローンボウルズコートが作られ、そこでプレーされていたようである。また毎日放送の千里丘放送センターにも社員の厚生施設としてコートが作られたようである（これらは現在はずべて無くなっている）。

1970（昭和45）年に、兵庫県副知事一谷定之丞（いちたにさだのじょう）氏がオーストラリアを視察。帰国後の副知事の提唱により兵庫県と県教育委員会がローンボウルズの普及を開始し、翌年には兵庫県体育協会および兵庫県レクリエーション委員会が「図解ローンボウルズ」（棚田真輔著）を発行した。そして県内の明石公園、明石市役所、園田競馬場、姫路書写、加古川浜の宮、太子、伊丹など数カ所にローンボウルズ場が新設された（リンク数の少ないものも含む）。

1974(昭和49)年に、第1回兵庫県知事杯大会開催。

1975(昭和50年)に、林英夫氏死去。

1980(昭和55)年に、明石で第1回全国大会開催（日本選手権の前身）。またこの年にメルボルンで開催された第4回世界選手権大会に6人が参加（猿丸吉左衛門および夫人、西忠雄、堀内勝人（明石在住）、上山実二、山谷省三）。このときにオーストラリア大会の実行委員会から「日本のボウルズのために5万ドル（当時のレートで約1千4百万円相当）を寄付したい」との申し出を受けた。帰国後に役員間で協議し、国内に本格的ローンボウルズ場を新設するなどの案が出たが諸事情があつて進展せず、結論としてはオーストラリアから人を招いて日本の実情を見てもらいアドバイスをいただくということ

になった。

1981(昭和56)年10月にジョン・ドッビー氏がグリーン建設の参考資料を持って来日し、当時の日本では最もコンディションが良いとされていた園田競馬場内のグリーンについて見学してもらい色々なアドバイスをもらった。そしてその後もオーストラリアとの交流がしばらく続いた。この関連で堀内勝人氏の働きかけで1992(平成4)年に明石公園ローンボウルズ場が天然芝から人工芝に張り替えられた。

1983(昭和58)年に日本ローンボウルズ協会 代表理事に西 忠雄氏が就任した。ところが1985-86(昭和60-61)年の2年間で西氏が中国深圳に新設されたゴルフ場の初代支配人として赴任し不在となった間に上山実二氏が日本ローンボウルズ連盟を設立し、I.B.B.にも加盟申請したため、国内的には、協会と連盟の2組織併存状態となった。

1989(平成1)年に、フェスピック(極東・南太平洋地区身障者スポーツ)神戸大会でローンボウルズ競技を実施。このときは日本ローンボウルズ協会(理事長 西 忠雄氏)が主管し日本ローンボウルズ連盟は協力した。これを契機として神戸市しあわせの村内に天然芝グリーン10リンク分が建設された。この年に笹川スポーツ財団の招へいで来日したI.B.B.会長が協会と連盟の合体の必要性を説いていかれた。

1991(平成3)年に、立川市昭和記念公園内にローンボウルズ場が開設。笹川スポーツ財団 城倉常務理事が東京ローンボウルズクラブ(T.L.B.C.)を結成。

1992(平成4)年4月に、笹川スポーツ財団城倉常務理事の斡旋により協会と連盟の合体のための協議の場が持たれるようになった(協会は西理事長、連盟は上山氏からA. ラウフ氏(YC&AC)に理事長交代していた)。しかし、話し合いはなかなか進展しなかった。

同年に、I.B.B.がW.B.B.(World Bowls Board)と改称。

2000(平成12年)4月15日に、西 忠雄氏死去。

2005(平成17)年になってやっと国内2団体(日本ローンボウルズ協会および日本ローンボウルズ連盟)が「日本ローンボウルズ委員会」として統合し発足した。初代会長 西 雅一郎(西 忠雄氏の弟)、初代理事長 山田 誠。所属クラブ数は17、会員総数は246であった。

同年5月から、会員向け月刊情報メールマガジン「BJブリテン」を発行開始。

2006(平成18)年4月にオーストラリア在住日本人が個人会員として加わり、また6月からは北海道ローンボウルズクラブが新規に加盟した。オーストラリア在住会員は2016(平成28)年4月からはオーストラリアクラブを結成した。

2008(平成20)年8月に「日本ローンボウルズ委員会」が兵庫県認証の「NPO法人ローンボウルズ日本(Bowls Japan)」になり、国内統一組織としての基盤が強化された。

2009(平成21)10月に、独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成金を得て、中国、韓国、マレーシア、香港から選抜チームを招き、日本初のローンボウルズ国際大会(第1回ジャパンオープン国際ローンボウルズ大会)を神戸市しあわせの村で開催。以降、2年ごとに定期開催(会場は回り持ち)とし、2019年開催で第6回となる。

2011(平成23)年4月に、NPO法人ローンボウルズ日本兵庫支部発足。2018(平成30年)4月からは関西支部に拡大。

2012(平成24)4月に明石公園グリーン人工芝全面貼り替え工事完成。

2014(平成26)年4月にNPO法人ローンボウルズ日本関東支部発足。またローンボウルズ高知UCが新

規に加盟。10月には当法人が認定法人資格を得て認定NPO法人ローンボウルズ日本となった（資格有効期間5年）。

2015(平成27)年4月にローンボウルズクラブ京都が新規に加盟。一方、9年間継続した北海道ローンボウルズクラブが経営者の交代に伴い施設を閉鎖したため、解散した。

2017(平成29)年11月に、アジアで初めての開催となるワールドマスターズゲームズ2021関西大会のオープン種目の一つとしてローンボウルズが採用されることが決定。2021年5月14日から30日までの間で神戸市しあわせの村および明石市明石公園の会場で実施する。

この間に日本の競技指向ボウラーの技術レベルも徐々に向上し、上位の国際大会において入賞するケースが徐々に増えていった。

2005(平成17)年6月のアジア選手権大会（会場はマレーシア）にて女子フォアーズ（合田洋子、増田香織、杉本恵梨、小笠原由香恵）が日本の国際大会史上初の銅メダル獲得。

2006(平成18)年にマレーシアで開催された第9回フェスピック大会で藤原英良・澤田昭雄がB7クラス男子ペアーズの金メダルを、児島久雄がB7クラス男子シングルの銅メダルを獲得。

2007(平成19)年7月のアジア選手権大会（会場はマレーシア）にて男子ペアーズ（中村慎吾、江村健一）が銅メダル獲得。

2011(平成23)年4月 オーストラリア・ワリラで開催された世界ジュニア・シングルス選手権大会において長谷部健太選手(オーストラリア在住会員、21歳)が3位入賞し、同大会史上初めて日章旗を上げ、銅メダルを獲得した。

また12月にはオーストラリア・アデレードで開催されたアジア・太平洋地域ローンボウルズ選手権大会において女子フォアーズチーム（小野暖未、前林典子、江村裕子、佐藤正子）が3位入賞し、同大会史上初めて日章旗を上げ、銅メダルを獲得した。

2012（平成24）年10月に韓国仁川で開催されたアジア・パラリンピック競技大会において兵庫車椅子クラブの植松博至選手が障害度B6クラス・シングルス種目において銅メダルを獲得した。

2015（平成27）年11月にニュージーランド・クライストチャーチで開催されたアジア・太平洋地域ローンボウルズ選手権大会において日本男子トリプルズチーム（長谷部健太、江村健一、佐藤寿治）が銀メダル（2位入賞）を獲得、また男子シングルスで長谷部健太が銅メダル（3位入賞）を獲得した。

2016(平成28)年1月のアジア選手権大会（会場はブルネイ王国）にて女子シングルス（松岡 緑）が銅メダル獲得。

同年12月にニュージーランド・クライストチャーチで開催された世界選手権大会において男子トリプルズチーム（長谷部健太、江村健一、佐藤寿治）が同大会史上初めての銅メダル（3位入賞）を獲得した。

2018（平成30）年10月に中国・新郷市で開催されたアジア選手権大会において女子シングルス種目（松岡 緑）が同大会史上初めての銀メダル（2位入賞）を獲得し、また女子ペアーズ（黒原恵子、松岡 緑）も銅メダル（3位入賞）を獲得した。

（以上）